II－23　開発港湾と地域に関する一考察（鹿島港を例として）

運輸省第二港湾建設局企画課　正会員　○尾崎正明

1．本調査の概要

新産業都市及び工業整備特別地域整備促進法により工業開発を核とした地域開発計画が実施に移され，すでに10年が経過したが，当初の計画は徐々に達成され着実に効果をあげている．しかし地域の個人所得が向上し，生活水準が上昇した反面，これら経済社会の発展に伴なって開発による自然破壊，産業公害，交通公害等の種々のひずみが生じつつあることも否定できない．そこで当局では代表的なものとして鹿島港を例として，開発が地域社会へ及ぼした影響を社会学的に把握するため昭和48年度住民意識調査を実施した．本報告はその結果の概要である．調査の実施にあたっては地域住民の生活次元を　①コンビナート認知度　②コンビナート評価の諸側面　③港湾設備認知度　④港湾施設評価などととらえる質問群を設定した．調査対象については鹿島町及び神栖町から次の4つの特性を示す8地区を選定した．①コンビナート建設に伴って部落ぐるみ土地を提供し，移転して農業を営んでいる地区　②同じくコンビナート建設に伴って部落ぐるみ土地を提供し，移転して転業した地区　③半農半漁地区　④農業専業地区．以上の他，非農家地区として鹿島商店街を取り上げた．なお調査は昭和49年1月26日より2月3日まで質問紙法にもとづく留置調査方法で行なった．

2．調査結果

(1)　コンビナート建設と農業経営の変化

①　所有地の変化

各地区に共通の傾向がみられるわけでなく，所有地面積が殆んど変化していない所もあれば大幅に減少している地区もある．また代替地の取得，念願の取得なども地区によって一様でない．

②　補償金の使途と土地売却の有無

補償金の使途として住居の増改築等に使われた点は共通している．また土地の売却は多かれ少なかれ，すべての地区で行なわれているようであるが，代金の使途は一様でない．

③農業経営上の変化

コンビナート建設に伴い農作物の種類が減少してきている．そして農業収入の比率も低下しており，農業外収入が増大している．農業経営は全体としてコンビナート建設前と比較して悪くなったという地区が多い．しかし農業経営を継続する意志が固いことは各地区とも共通しており，特に一部では大規模な農業経営を志向するものもある．

(2)　コンビナート建設と消費生活

①　購売行動

食料品・日用品の購入先はいずれの地区でも変化を見せている．ただ，その変化により近所の商店中心に変えたものから，逆に近所の商店中心でなくなったものまで一様でない．

②　家計支出と現金収入

コンビナート建設前と比較してとくに支出増の著るしい費目は交際費を第一にあげているものが多い．家計のやりくり，アルバイトによる現金収入等についてはまちまちである．

③　生活基盤

コンビナート建設に伴って整備されたものとして「学校施設」「防火施設」「交通安全施設」をあげるなどいう

いるあるが，各地区とも一致してあげるのは「通信施設」である．反対に不便になったものとしてあげられているのは交通が不便になったという地区が多い

(3) コンビナート建設と住民の意識

① コンビナートをめぐる住民の意識

コンビナートについての認知度は極めて低いにもかかわらず，コンビナートに公害発生工場が存在することを認める声は高い．コンビナートが地域社会にもたらしたプラス面として，各地区とも一致して評価しているのは「地元に働口がみつけやすくなった」という点と「税収入が増えて豊かな町になった」という点である．これに対してマイナス面として各地区とも一致して認めているのは「町の人の生活が派手になりぜい沢になった」という点と「町全体が騒々しく落着かなくなった」という点である．又，神栖町の各地区は町の財政面への貢献を評価するものが多い．これらを通じて，コンビナートの町に与えるメリットとしては工業開発に伴う人口増加によって町が活気を帯び発展することを挙げる人が多く，次にコンビナートの納める税金を挙げており，これらの二次的効果を開発によって得られたメリットとしている点において，全般的に工業基地開発を肯定的に促えていることがわかる．

② 鹿島港をめぐる住民の意識

各地区とも鹿島港が「コンビナートの活動を通じて間接的に町の発展に役立っている」ことは認めているが，自分達の日常生活に直接役立っているかどうかについては評価は一致しない．そのためか，現在鹿島港の果している役割が「コンビナートの生産活動に必要な原材料の供給」「および製品の輸送に役立っている」ことである点を一致して認めているわけでもない．

③ 生活の共同性の変化

コンビナートの建設に伴う生活の共同性の変化として各地区とも共通に認めているのは冠婚葬祭の際の助け合いの習慣が変化したことである．実際には，冠婚葬祭の費用の増加傾向からみてすたれたというより「やり方」が変ったというべきだがその認識の度合は異っている．

④ 地域社会の凝集性の変化

各地区とも共通して認めているのは犯罪の増加，交通事故の増加といった生活上の諸事実と住民の功利主義的姿勢の強化という態度の側面である．

⑤ 地域社会への帰属度

地域社会への帰属感は愛郷型，諦め型，愛着型と一様でない．また地域社会における人間関係のあり方についても，伝統型を強調する地区と，市民型を強調する地区にわかれている．

3．まとめ

以上の結果を通してみるとコンビナートそれ自体は住民にとっては関心の薄い存在といえるようである．また鹿島港の評価が必ずしも明快でないことは，鹿島港の果しつつある現実の機能についての知識の欠如とともに，港湾施設一般についての幻想の存在を示す．それは一面においてコンビナート建設に当って行なわれたバラ色のイメージ操作と，伝統的な形で存在する港町イメージから作られたものであろう．以上，本調査の概要を述べたが，同様のアフターケア調査を今後とも継続させ，新しい港湾計画を策定するにあたっての考慮すべき事項，問題点等を検討する

参考文献

1）鹿島地区アフターケア調査報告書，運輸省第二港湾建設局，昭和49年3月
2）鹿島臨海工業地帯調査報告書（Ⅲ），運輸省第二港湾建設局，昭和47年3月